

営農技術情報

発行 令和8年6月23日

第7号

たいせつ農業協同組合

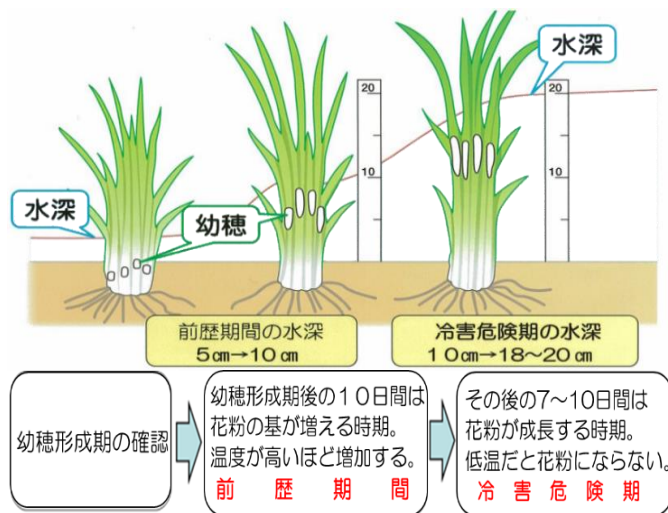
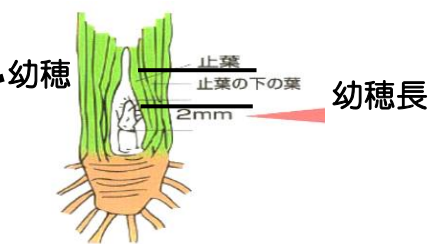
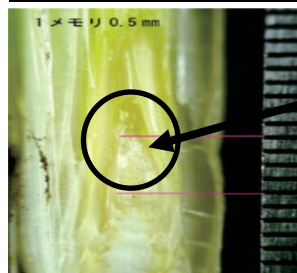
営農部 農産販売課

本所 営農センター 57-2357

支所 営農センター 87-4111

6月15日の生育調査によると、水稻作柄は平年より1日早く進んでおり、順調に進んでいます。また、これから幼穂形成期（平年6月25日）の時期となりますので、移植の早いほ場を優先的に確認しましょう。

○幼穂形成期の確認・水管理について



Check!

平均的な株の主茎を3～5本取り、カッターナイフ等で縦に切断して幼穂長を確認し、上図のように2mmに達していれば幼穂形成期です。

※手の怪我に注意しましょう!!

○ケイ酸追肥を実施しましょう

稲のケイ酸吸収は幼穂形成期以降に増加し、成熟期まで続きます。ケイ酸追肥の効果としてタンパク含有量の低下、根の活力増大や茎の耐倒伏性の向上などが期待できるため、ケイ酸追肥を検討しましょう（下表：主なケイ酸資材）。

施用資材名	使用量	使用時期	期待できる効果
粒状ケイカル ・ スーパーミネカル 等	20 kg/10a	幼穂形成期 1週間後	・ 精米蛋白含有率の低下 ・ 不稔発生の軽減 ・ 耐倒伏性の向上 等

○前歴期間の水管理

幼穂形成期を確認したら水深を5cmから徐々に10cmまでの深水とし、水温を維持しましょう。用水量が豊富な場所での急激な入水や用水量の足りない場所でも毎日入れ続けることはせずに、ほ場を冷やさない様にしましょう。

	6月 下旬	7月 上旬	7月 中旬	7月 下旬
生育期節	幼穂形成期 前歴期間	冷害危険期	止葉期	出穂期
管理	深水管理	深水管理	溝切り 中干し	出穂が始まったら入水